

生きることはキリストである
スティーヴ・ミッchel
2024年・6月・16日

おはようございます...皆さんと再会できて本当に嬉しいです...ポー牧師とクリフに感謝しています。彼らは優雅さと謙虚さ、そして常に学び成長する姿勢で、このような重要な任務を果たしてきました...

父の日おめでとうございます...多くの教会で、母の日には母親を敬い、父の日には父親を叱責するという事に気づいたのですが...そんなことはやめましょう。その代わりに、家の中で父親を敬いましょう。今日は、スティーヴ・ミッchel牧師が書いた典礼文を読み、父親のために祈ってほしいと思います... **プレゼントを受け取るためにお父さんに手を挙げてもらう...**

毎瞬間の聖なる典礼:

父親が毎日しなければならない仕事はたくさんあります。

すべての父よ、父親としての私たちの仕事に付き合ってください。
あなたの備えによって、私たちが家族とともに安らかに眠ることができ
ますように。

あなたの恵みによって、私たちが遺産をつかむことができますように。
あなたの保護によって、私たちが仕掛けられた罠から逃れることができ
ますように。

そして、あなたの存在によって、私たちが道に迷うことがないようにしてく
ださい。

計画、旅行、建築、指導、そして終わりのない要求と避けられない落胆を乗り越
えて、私たちが苦勞する間、力を与えてください。

私たちに管理の知恵を与えてください
そうすれば、日々の糧を追い求めることで
私たちの人生全体が消費されることがなくなります。

天の高き王、すべてのもののしもべよ、
私たちのインスピレーション、私たちの野望、
私たちの癒し手、私たちの導き手、
私たちの誠実さ、私たちの喜びとなってください。

あなたの愛を通して私たちを自由へと導いてください
私たちが受けてきた傷から
私たちが信じてきた嘘から
私たちを閉じ込める罪から。

私たちは使命において、自由にあなたに自分自身を捧げます
家族を愛するため
彼らのニーズをケアするため
そして、私たちの傷と勝利の物語を後世の人々と共有するため。

アーメン。

お父さんの人生と私たち全員への貢献に感謝しましょう...

これは教会生活における極めて重要な瞬間であり、岐路に立つ瞬間であると私は信じています。私たちはキリスト教においてキリストを失う危険にさらされていると思います。この文化的瞬間に、私たちがイエスの人生と愛をどのように体現するかが重要です...

パウロの手紙の中で私が最も好きなのはフィリピ人への手紙です...パウロは、私たちが現在生きている文化的現実をどう乗り越えていくかについて、多くのことを教えてくれます...

祈り...

“さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。”
ピリピ人への手紙 1:12 口語訳

パウロに「何が起こったか」の背景は使徒行伝 21 章から 28 章にあります...

彼は説教者としてローマに行きたいと思っていましたが、囚人として行きました...

私たちは、苦しみ、迫害、困難に対する彼の見方を見ることができます – それらは福音を前進させるものであり... パウロが経験するすべてのことは福音を前進させるのに役立つものなのです...

「前進」という言葉はギリシャの軍事用語で、軍隊の先頭に立って新しい領土への道を切り開く陸軍の技術者を指します。パウロは、囚人として閉じ込められるのではなく、自分の境遇が宣教の新しい分野を切り開くことを発見しました。

この箇所ではパウロは、自分を戦士としてではなく、主のために道を整えた洗礼者ヨハネのような技術者として描いています。パウロは、フィリピやローマを含むローマ帝国全土の人々の人生においてイエスの道を切り開く自分を見ていたのです。障壁を取り除き、福音をより身近なものにしました。

ヘンリー・フォードを思い出す – 彼は、自動車の製造方法を再考することで、より多くの人々が利用できる自動車を設計し、そうすることで自動車設計に新たな領域を切り開きました。彼は、自動車を製造する個人としてだけでなく、世界を変えた組立ラインの発明者でもありました。

パウロは、ユダヤ人と異邦人、奴隷と自由人、女性と男性など、すべての人に開かれた形で福音を再パッケージ化しました。

パウロは一つの心、つまり福音を持っていたため、それが彼の人生の中心メッセージでした。私はキリストを説教し、彼は十字架につけられました。彼は文化的現実には惑わされて、その一つの目的、つまり福音の推進から気をそらされることはありませんでした。

実際のところ、パウロが3つの領域、つまり彼の鎖、彼の批判者、そして彼の危機にどのように反応したかは、壊れた世界に良い知らせをもたらす方法を私たちに教えてくれます。

パウロの鎖

“すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵營全体にもそのほかのすべての人々にも明らかになり、そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。”

ピリピ人への手紙 1:13-14 口語訳

- 彼は鎖について不平を言う代わりに、それを神の目的のために聖別しました...鎖は傷ついた人々に届く導管となりました...
- 24時間ごとに彼を警備する4人のローマ兵
- パウロだけでなくキリスト教の信仰をも裁いていたシーザーの法廷の役人たち...

そして、そのような信念、決意、そして視点を見ると、勇気づけられるのではないのでしょうか。彼らが人生にどう取り組んでいるかを見ると、自信が湧いてきます。

迫害された教会のスライド:

- 3億6500万人のキリスト教徒(7人に1人)が信仰のために迫害に直面しています。2023年には、信仰に関連した攻撃で世界中で4,998人のキリスト教徒が殺害されます。教会、キリスト教学校、病院への攻撃は14,766件
- キリスト教徒が殴打または脅迫されるケースは42,849件
- キリスト教徒の自宅への攻撃は21,431件
- 自宅から追い出されたり隠れたりするキリスト教徒は278,716人

これらの男性と女性は、私たちにもっと自信を持って生きるよう刺激を与えてくれます...

アメリカで私たちが経験する3つのプレッシャー: 無関心、反対、そして時には迫害。キリスト教徒の中には、あらゆる外部からの挑戦を「迫害」と呼ぶ人もいますが、これは信仰のせいで実際に身体的な危険にさらされている世界中の人々にとって大きな不利益です。

無関心 – 人々は私たちの信念や習慣に特別な配慮をしてくれません...

反対 – 人々は積極的に私たちの信念や習慣に異議を唱えます

迫害 – 私たちの信念や習慣を標的にして、痛みや害を与える

無関心、反対、あるいは真の迫害を経験するかどうかに関わらず、特にそのような瞬間には、喜びをもって信仰を強く持ち続けましょう。なぜなら、私たちの信仰は、他の人々が信仰を強く持ち続けるよう励ますからです。恐れは恐れを生みますが、喜びは喜びを生みます...

パウロの批評家

“一方では、ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり、他方では善意からそうする者がいる。後者は、わたしが福音を弁明するために立てられていることを知り、愛の心でキリストを伝え、前者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心からそうしている。”
ピリピ人への手紙 1:15-17 口語訳

パウロは分裂した教会について述べています...教会はパンデミック以来分裂しています。正確には、キリストが昇天してから約30年以来分裂しています。

教会にはいつも、誠実にキリストを説く人もいれば、利己的な野心からキリストを説く人もいます。善意と愛からキリストを説く人もいれば、嫉妬と競争心からキリストを説く人もいます...

パウロが「騒ぎを起こす」という言葉に使ったのは、議論をすることを意味し、政治職に立候補した人々、つまり他人の支持を集めようとし、そのために論争をいとわない人々を表すために使われました...

私がますます目にしているのは、文化戦争を戦うことを選んだ人たちが、結局は福音のために戦うのではなく、福音に反対して戦うことになるという状況です。覚えておいてください、パウロの心にあることはすべて福音の拡大に関するものでした。それが目標であり、文化変革ではありません。文化変革は福音の拡大の結果であると主張する人もいるかもしれませんが、文化変革のために戦うだけでは、福音が人々の心と生活に浸透することはありません。

しかし、ここが私にとって挑戦的な部分です:

“すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいるし、また喜ぶであろう。なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの霊の助けとによって、この事がついには、わたしの救となることを知っているからである。”
ピリピ人への手紙 1:18-19 口語訳

パウロは、イエスの教えを誤って伝えたと信じる人々に対して、心の中に嫉妬や悪意を抱いていませんでした...

私の仕事で最も難しいことの一つは、福音の広がり方について根本的に異なる見解を持つ地区の牧師たちをまとめることです...私は多様性の中で団結を押し進めることを学ばなければなりませんでした...

パウロは、たとえ福音の伝達手段が壊れていても、福音の力を信じています。私たちは教会の歴史の中でこれを何度も見てきました。神の共通の恵みは人間の破綻を克服します

同時代の2人の偉大なイギリスの伝道者の物語を語る – ジョン・ウェスレーとジョージ・ホワイトフィールド...彼らは教義上、激しい意見の相違がありました...

二人とも何千人もの人々がキリストに改宗するのを見ました...おそらく騒ぎを起こしたかった誰かがウェスレーに、天国でホワイトフィールドに会えると思うかと尋ね、ウェスレーは「いいえ、会えません」と答えました。その人は続けて「では、あなたはホワイトフィールドがクリスチャンだとは思っていないのですね」と言いました。

ウェスレーの答えはこうです。「もちろん彼はクリスチャンです。でも、天国で彼に会えるとは思っていません。彼は神の御座にとても近いのに、私はとても遠くにいるから彼に会えないからです。」

ウェスレーのように、私たちには謙虚さが必要です。そしてパウロのように、地元の教会と大文字の教会を愛し、イエスと神の王国を中心に据えながら、できる限りの一致点を見つける必要があります。

パウロの危機

“そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。わたしは、これら二つのもの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行くので、あなたがたはわたしによってキリスト・イエスにある誇を増すことになる。”

ピリピ人への手紙 1:20-26 口語訳

ここにパウロの危機があります。彼はこれから何が起こるか知りません。有罪になるのか、処刑されるのか、それとも無罪になって釈放されるのか...しかし、いずれにせよキリストが高められることを確実にしたいのです。

数か月前に日食に備えて望遠鏡を取り出しました(礼拝を歌で終える場合は礼拝チームが登場します)... 結局、ロサンゼルスで飛行機を降りた時には日食が始まっていたので、見ることはできませんでした... 地下鉄を降りると、作業員が特別なメガネで空を見上げていました...そこで、普段は絶対にしないことをし

ました。彼に近づいて、ちょっと見させてくれないかと頼んだのです...彼は本当に素晴らしかったです。まるで、月が太陽の一部を覆っているという畏敬の念を起こさせるような景色を一緒に見たいと思っていたかのようにでした...

私は星や惑星を見るのが大好きです...もちろん、星は私の望遠鏡よりもはるかに大きいのですが、私の望遠鏡はそれらの星を高くしたり拡大したりして、私たちの視界に近づけてくれます...

ここに美しさがあります。私たちの人生が、生きるか死ぬかに関わらず、私たちの人生が、イエス・キリストを私たちの周りの人々に近づける望遠鏡となりますように...

日食のように、誰もが注目するほど明白な出来事が起こる瞬間もあります(9.11の後に教会が満員になったとき)。しかし、ほとんどの場合、私たちは見上げません。ほとんどの人にとって、キリストは幻影的で、理解しがたい、何世紀も前に生きた漠然とした人物です。

しかし、未来が不確かなときに、私たちを通して、キリストへの信頼を通して、私たちに反対する人々に私たちがどのように反応するか、意見の合わない人々を私たちがどのように愛するかによって、神の偉大さが示されるのです...

私たちのほとんどは、望遠鏡の生活ではなく顕微鏡の生活を送っています...大きなものを近づけるのではなく、小さなものを大きくします...

しかし、生と死のすべてがキリストに近づくためだとしたらどうでしょうか？ 私たちの鎖、私たちの批判、私たちの危機...生きることはキリストであり、死ぬことは利益です...

そして今日、自分自身に問いかけてみてほしいのです、**あなたの人生はキリストを他の人々に近づけていますか？人々はあなたを通して、イエスの愛を身近に、個人的に見ていますか？あなたの試練を通して？あなたの苦しみを通して？あなたの成功を通して？あなたの喜びを通して？**

私にとって、キリストとして生きるということは、キリストが私たちの主な焦点であることを意味します。私たちがすることすべて。私たちがそれをする方法。そのすべてはイエスです。彼の福音のためです。この人生は、イエスが近づいてきて、拡大されるという良い知らせに関するものです...

私にとって、死ぬことは利益です。それは双方にとって利益のあるシナリオです。私たちがこの人生でキリストに焦点を当て続けるなら、たとえこの命を失ったとしても、私たちは失うことはありません。

ですから、ヘブル人への手紙の著者が教えているように、私たちの信仰の創始者であり完成者であるイエスに目を留めましょう。イエスは、自分の前に置かれた喜びを耐え忍ばれました。疲れ果てて失望することがないように、イエスとその生き方をよく考えましょう。アーメン。

祈りと返事...